

授業科目名 (英文名)	エコロジー経済学 (経済学部・専門 教育科目) (Ecological Economics)	科目区分 対象学生	
単位数	4.0	開講年次・ 学期	2
担当教員	三俣 学	所属	経済学部
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	生態系における物質循環の仕組みを学ぶとともに、それを基盤として存立する人間の経済社会がいかなる制度・社会的条件のもとで持続可能となるのかについて、具体的な事例に基づき理解を深める。講義内で予定している様々な質疑や議論を通じ、エコロジー経済学的な考え方を深め、自分なりの意見をもつことができるようになることを目標にする。		
講義内容・授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス (履修上の注意事項などについて) 2 エコロジー経済学の射程 3 標準的な経済学に基づく環境問題の解法 4 コースの定理とピグー税 5 資源環境問題に示唆を与えた経済学者 6 経済活動と公害 環境問題のポリティクス 7 物質循環論 (1) めぐる命の輪 8 物質循環論 (2) サケの果たす栄養循環 9 物質循環論 (3) 海・陸・大気の循環 10 物質循環論 (4) 熊沢蕃山・鶴の山モデル 11 エントロピー論 (1) 12 エントロピー論 (2) 13 公共事業としての河川管理に見る物質循環の断絶 14 ケーススタディ 荒瀬ダム撤去に見る循環の回復 15 政府の役割とその機能不全 16 コモンズ論の理論 国内での議論 (1) 17 コモンズ論の理論 国内での議論 (2) 18 社会的共通資本の理論 19 コモンズ論の理論 海外での議論 (1) 20 コモンズ論の理論 海外での議論 (2) 21 日本の森林事情 22 ケーススタディ (1) 「日本の入会」 の歴史的変遷と林政 23 ケーススタディ (2) 森林コモンズ 24 ケーススタディ (3) 森林コモンズ 25 環境ガバナンス論 26 ケーススタディ (1) 英国の開放型コモンズ 27 ケーススタディ (2) 英国の開放型コモンズ 28 ケーススタディ (3) 自然アクセス権・北欧の万人権 29 ケーススタディ (4) 自然アクセス権・北欧の万人権 30 まとめー環境資源の持続的利用と管理のための条件 31 . 評価 		
テキスト	指定しない。		
参考文献	三俣学編 (2014) 『エコロジーとコモンズ』晃洋書房		
成績評価の基準・方法	<p>原則的試験で判断する。講義中に視聴するビデオの感想や参加型講義 (可能な場合のみ) を行うが、これらへの参加・貢献は加点対象とする。</p> <p>エコロジー経済学について、幅広い知識を習得し、講義内で予定している質疑や議論において、積極的に自分の意見を述べる者が単位を授与する。</p>		

履修上の注意・履修要件	特に初回は授業概要を説明するので必ず出席すること。 基礎経済学を履修していることが望ましい。 講義中は私語を慎み他の受講生の迷惑にならないようにすること。
実践的教育	
備考	